

(様式)

平成 26 年度 現地技術実証展示ほ 成果情報

大豆新品種「里のほほえみ」の良質安定栽培の確立

要約

大豆新品種「里のほほえみ」について、安定栽培を目的とした播種量の検討を行った。播種量 5.5kg/10a 区では、播種量 4.0kg/10a 区に比べ一株当たりの莢数は少ないが、面積当たりの株数、百粒重、大粒割合が確保され子実重が多くなったため、里のほほえみで安定した収量を得るためには、播種量 4.0kg/10a より 5.5kg/10a が適している。また、播種の際の機械の調整や、べと病の防除が必要である。

○ 展示のねらい

大豆新品種「里のほほえみ」について、播種量の違いが「里のほほえみ」の生育や収量、品質に及ぼす影響を明らかにし、普及拡大の資とする。

試験区		播種量 (kg/10a)
里のほほえみ	供試区	5.7kg/10a (5.5kg/10a目標)
	慣行区	4.1kg/10a (4.0kg/10a目標)

○ 主な成果

表 生育調査及び収量調査結果

試験区	播種量 (kg/10a)	苗立数 (本/㎡)	主茎長 (cm)	全莢数 (莢/㎡)	倒伏 程度	子実重 (kg/10a)	百粒重 (g)	大粒割合 >7.9 (%)
慣行区	4.1	10.9	45.6	579.3	0.0	308	35.5	92.0
供試区	5.7	15.0	59.5	701.3	0.0	349	37.1	95.8

表 品質調査結果

試験区	播種量 (kg/10a)	品質	等級	整粒 (%)	べと病 (%)	蛋白
慣行区	4.1	1	1	93.0	0.5	44.0
供試区	5.7	1	1	95.4	0.8	44.4

注) 品質及び等級はJAグループ栃木農産物検査協会による検査結果。

品質は、上上-1、上中-2、上下-3、中上-4、中中-5、中下-6、下-7の7段階表示である。

等級は、1上-1、1中-2、1下-3、2上-4、2中-5、2下-6、規格外-7の7段階表示である。

蛋白は近赤外分析装置Infratec1241による測定値(無水値)である。

- ① 子実重については、慣行区を供試区が約 40kg 上回った。面積当たりの莢数が多いことや、百粒重が大きいことから、供試区の方が多収になったと考えらる。また、百粒重については、両区とも軽かった。これは、開花期以降の降水量が、8月は平年比 57%、9月は平年比 33%と少なかった(小山アメダスデータ)ことから、干ばつにより子実肥大が抑制され、百粒重が小さくなった可能性がある。
- ② 開花期、成熟期及び品質等には播種量による違いは見られなかった。べと病は両区のほか場全体で発生が見られた。

○ 今後の方向性

タチナガハから里のほほえみへの品種転換にあたり、本展示ほの調査結果を講習会等で活用する。里のほほえみは大粒で、粒の形がやや扁平であることから、播種時に適正播種量が落ちるよう、機械の調整が必要な場合があるため、注意喚起を行う。べと病についても防除について周知徹底が必要である。

実施機関：下都賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：栃木市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315